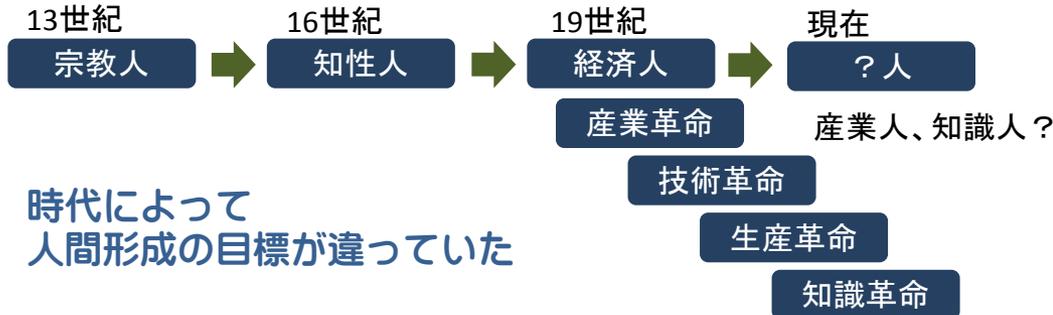


社会変化を見つける視点

間違いなく社会は常に動いている

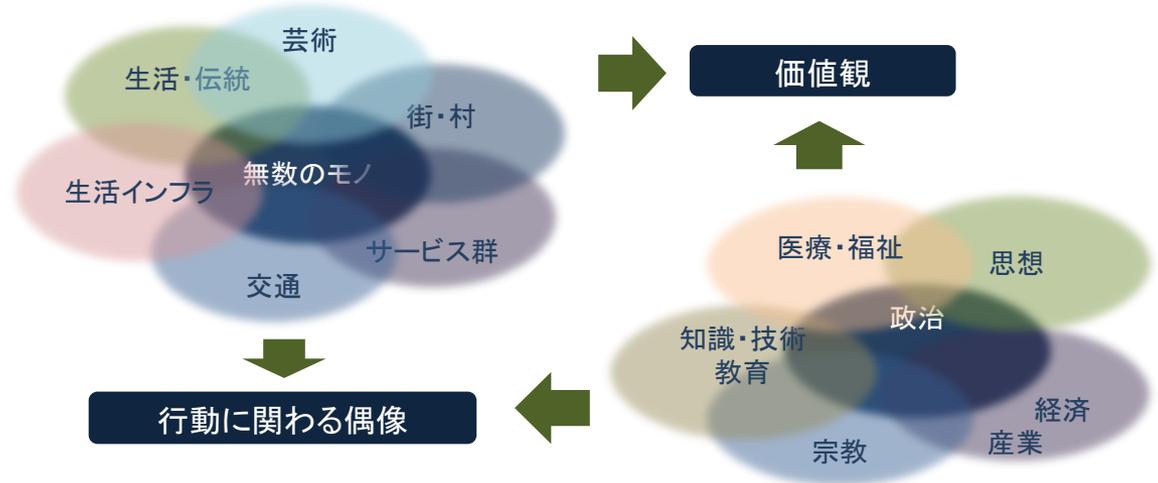


時代によって 人間形成の目標が違っていた

- 1868年 明治維新
 - 1887年 東京に電灯がつく
 - 1891年 水力電気事業起こる
 - 1920年 知識社会学(ドイツ人マックス・シェーラー)
 - 1947年 コンピュータ産業起こる
 - 1958年 電子計算機完成
 - 1969年 アポロ11号 月往復
 - 1973年 変動為替
 - 1977年 大学入試センター
 - 1986年 ソ連チェルノブイリ原発事故
 - 1990年 ドイツ統一
 - 1991年 ソ連消滅
 - 1992年 ドコモ設立 気候変動条約
 - 1993年 1ドル100円
 - 2001年 アメリカ同時多発テロ
 - 2004年 EU25ヶ国体制スタート
 - 2008年 リーマン・ショック
- ※「明治維新からの年表」をご覧ください。
<http://www.seedwin.co.jp/report.html>

社会変化の認識は、組織活動の機会発見につながる。変化の方向の是非に関わらず、個人及び組織活動は社会に最適化するように動く。社会が静止している状態であれば、組織活動は常に同じ状態になり易く発展の可能性は小さい。

社会変化の兆候をいち早く察知し、思考と行動を適応させる必要がある。視点の対象、見るポイントを検討する。



《現代史を視る》

何が起こったかを知るのには良い、博識に見えるかもしれない。それよりも、起こった事件の後、何があり、何が変わったかを考える。それこそ、歴史に学ぶである。そして、私たちは、何を行なうかを検討する。